

Book Review

新刊紹介

遺伝子医学 MOOK 別冊 創薬技術の革新：マイクロ ドーズから PET 分子 イメージングへの新展開

杉山雄一, 山下伸二, 栗原千恵子 編

メディカルドゥ/B5・252頁・5,600円

マイクロドーズ：想像はできても聞きなれない用語かもしれないが、今後恐らく爆発的に耳にする様になるであろう。本書はその“パンデミック”を予測させるに十分な内容となっている。「マイクロドーズ試験」とは、薬理作用さえ生ずることのないごくごく低い

用量をヒトに投与し、その薬物の体内動態等の情報を得ようとする試験法であり、臨床試験の第I相以降への進展を判断する有益な試験法と定義づけられている。この手法はPET (positron emission tomography) と組み合わせられて用いられる場合が多い。2008年6月3日に、ヒトへの放射性標識化合物の投与が認められ、そのガイドラインが示されたことがこの手法の登場の背景にあるが(薬食審査発第0603001号)、賢明なファルマシアの読者は、この手法がただ単に臨床試験の分野だけにとどまらず、基礎研究分野にも大きく寄与することを容易に想像するであろう。実際本書中でも、受容体占有率を計算する

ことによる脳内移行率の知見や、アルツハイマー病早期診断の可能性、末梢循環領域でのイメージングの例などが、前線の研究者により淡々と語られている。しかしその内容は、薬理研究や薬物動態学研究に革命的な変化をもたらす可能性を秘めており、興奮なくして読むことはできない。購入・一読することにより、新たなアイデアが得られること請け合いの面白い1冊である。

東田道久 Michihisa TOHDA

※本書は、日本薬学会「薬学情報コーナー」で閲覧できます。